

# KEIZAIREN

## 情報③

● 2023.3 ● NO.1302

安全・安心・新鮮でおいしい静岡県産の農畜産物をお届けします。

## 営農経済事業の強化に向けて JA静岡経済連の機構改編について JA支援課による経済事業強化に向けた新たな取組

### Main topics

#### 営農経済事業の強化に向けて

- JA静岡経済連の機構改編について ……01
- JA支援課による経済事業強化に向けた新たな取組…02

### topics&news

- 農協運動発展の功績をたたえる  
松永会長が第43回農協人文化賞を受賞…03
- 仕上り、貯蔵性を競う  
第57回静岡県貯蔵ミカン品評会  
第43回静岡県中晩生柑橘品評会(ポンカンの部)…03
- 静岡の貯蔵ミカンをPR  
品評会受賞の貯蔵ミカンを県知事に贈呈…04
- なし・いちじく・キウイフルーツ受賞者を表彰  
落葉果樹品評会の表彰式を開催…04
- 静岡県産品をPR  
首都圏のイオンで静岡県フェアを開催…05
- 日本最大規模の花の展覧会  
第71回関東東海花の展覧会…05
- 産地の課題解決  
産官学技術交流事業報告会…05

### お知らせ

- 提携協NEWS ……06

### 営農だより

- 昆虫も病気にかかる…07
- 野菜の肥料コスト低減対策…08

### お知らせ

- 建設部からのお知らせ…09
- テレビ番組のご紹介…09
- キャラバン隊活動報告…10



▲松永会長が第43回農協人文化賞を受賞



▲第57回貯蔵ミカン品評会  
第43回中晩生柑橘品評会(ポンカンの部)



# 営農経済事業の強化に向けて

## J A静岡経済連の機構改編について

### I はじめに

本県JAグループでは、第53回静岡県農業協同組合大会で、次期2か年計画(大綱)及び本県JAグループの持続可能な経営基盤の取組みについて決議しました。本会はJAと一体となった営農経済事業の効率的・効果的な事業運営体制の構築に向け、次の3点を掲げています。

- ① 農機事業の県域一体化運営等について、具体的方策を速やかに検討し、実践する
- ② JA域を越えた集出荷施設等の設置および運営による施設運営コストや、流通コストの削減に向けた検討を進める
- ③ 肥料の銘柄集約や需要の高い商品への絞込み、DX化の取組みによる予約購買機能の強化等を通じて、組合員の利便性や業務効率の向上に向けた検討・実践を進める

本会では、これらの取組への対応として、新規部署の設置や業務内容の変更など、県域としての機能強化を目的に令和5年4月1日より、機構改編を行います。

### II 機構改編の内容

#### 1. 部・支所の新設統合強化

##### (1) 営農総合対策部

営農担当常務の直轄部署として営農総合対策部を新設し、企画管理部

配下のJA支援課と生産資材部配下の生産振興開発課を移動させ、1部2課体制とします。

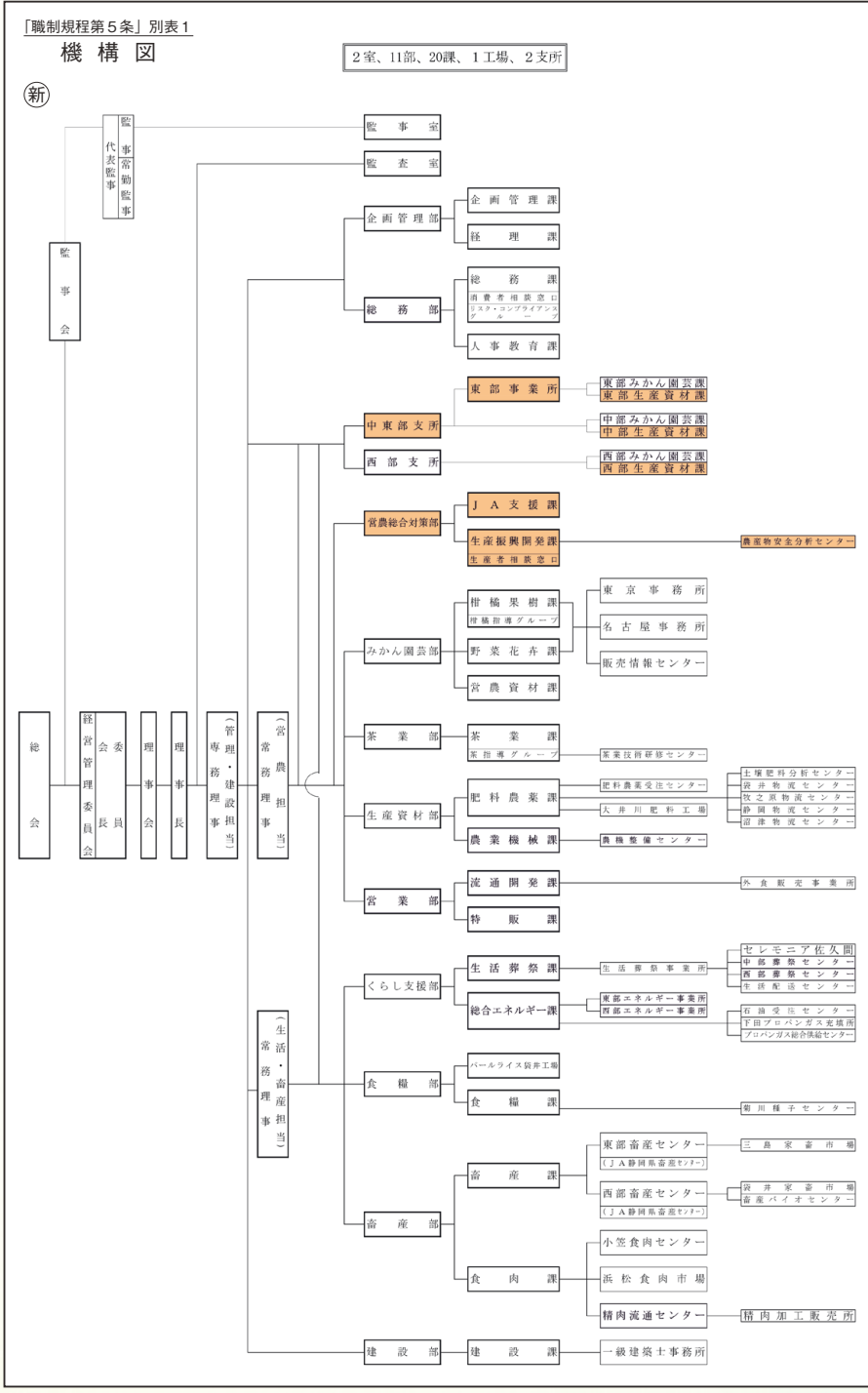
営農総合対策部は、営農事業における系統間及び本会営農部署間の連携推進及び調整機能を担います。

(2) 東部事業所  
東部支所を廃止して、2支所体制とし、中部支所配下に東部事業所を新設します。東部地区JAへの対応を現行と同等とするため、現業課を存置します。

2. 名称を変更する部署

(1) 中東部支所  
中部支所で東部地区を担当することになるため、中東部支所に名称変更を行います。

(2) 生産資材課(支所・事業所)  
支所・事業所に設置されている肥料農薬課について、次期2か年計画にも盛り込まれている農機事業の持続化に向けた取り組みの推進・実践を一部担うこととするため、生産資材課に名称変更し、業務内容に農業機械に関する業務を追加します。





# J A 支援課による経済事業強化に向けた新たな取組

## I はじめに

J A 支援課では、J A 営農経済事業への支援に関する業務、J A 間事業連携に関する業務などを行っています。今回の特集では今年度 J A 支援課で取り組んだ「労働力支援」と「無人店舗システムの検討」について、ご紹介いたします。

## II 経済事業強化に向けた取組

### 1. 労働力支援

#### (1) 農業従事者の動向

我が国の令和2年の農業従事者数（基幹的農業従事者と常雇いの合計）は152万人で、平成27年の197万人と比べ5年間で45万人減少し、減少率は20%以上となっています。一方、個人経営体の基幹的農業従事者のうち65歳以上が占める割合は7%上昇し高齢化が進んでおり、若手の人材確保が課題となっています。（出典：農林水産省「2020年農林業センサス」）

#### (2) タイミー社との連携

本会は、スキマバイトサービス「タイミー」を提供する株式会社と農業分野の人手不足解消に向け共同事業の基本契約を締結しました。共同事業では、本会が窓口となり、県内 J A の取りまとめを行います。各 J A は、組合員へタイミーを紹介し、導入を促します。

タイミーを活用することで、農業経営者（雇用者）は収穫時期など人手が必要な時期にだけ働き手を確保することができ、働き手は自分の「スキマ（働きやすい）時間だけ働くことができ

ます。また農業に興味がある労働者は、「スキマバイト」で気軽に農業に携わることが可能になります。雇用者は、タイミーでマッチングした働き手を個別に引き抜くことができ、長く働いてもらえる働き手を確保することも可能です。

#### (3) 利用者の声

実際に今年度タイミーを活用した J A みつかびの山本農園・山本純さんに話を聞きました。

Q. 山本農園の経営状況と労働力確保について

A. ほ場管理は家族で行い、収穫時はアルバイトを約20人雇用しています。アルバイトは J A の職業紹介や派遣会社に依頼し、学生などの若年層と、定年後の60代以上が主に集まります。労働力確保の課題について雇用者としては毎年同じ人をお願いしたいと考えていますが、若年層（学生）は就職し、60代以上の方は年々就労が困難になることが課題です。

A. Q. タイミーを利用した理由と利用しての感想について

A. Q. タイミーは J A の紹介で知りました。当初は、出勤予定のアルバイトが急に来られなくなり、急きよ募集をする必要が出たためです。前日の夕方募集をしたのですが、すぐにマッチングできました。

A. Q. 今後の意向について

毎年同期に労働力が必要とするため、来年もタイミーを利用

し、毎年来られる方を増やしたいと思っています。



▲山本農園・山本純さん



▲タイミー

## 2. 無人店舗システムの検討

### (1) 概要

無人店舗とは、スマートフォンやセンサーなどのデジタル技術を活用し、商品に取り付けられた電子タグを読み取り、商品購入から決済までを無人化した店舗です。コロナ禍で非接触が推奨されたことや人手不足への解決策、デジタルトランスフォーメーション（DX）が進む中、様々な業界で導入が進んでいます。無人店舗では、商品陳列などは人手が必要となりますが、店舗に職員が常駐する必要が無く、一人の職員が

複数店舗を管理することが可能となります。

## (2) 無人店舗の実演会を開催

1月19日、J A 支援課は県農業会館で、NEC 静岡支社・中部電力ミライズ・マスプロ電工と協力し、本会職員を対象に無人で運営する店舗設置の実演会を行いました。実演会では、肥料や農薬、園芸資材の他、パイルライスなどの購買品を実際に並べ、商品購入の流れを確認しました。

無人店舗を体験した職員からは、使いやすいという意見が聞かれた一方、商品への電子タグ貼り付け作業や導入費用、盗難などセキュリティ対策の課題も挙げられました。

## III おわりに

今回の特集では、J A 支援課が経済事業強化に向け今年度新たに実施した2つの取組を紹介しました。令和5年度より J A 支援課は、「営農総合対策部」に配置を変更し、県域としての機能強化と J A と一体となった営農経済事業の効率的・効果的な事業運営体制の構築に取り組んでまいります。



▲無人店舗システムの実演

### 問い合わせ先

● J A 支援課

電話：0544-2841-9709



## 農協運動発展の功績をたたえる 松永会長が第43回農協 人文化賞を受賞

第43回農協人文化賞の表彰式が1月26日、東京都千代田区大手町の東京會館で開かれ、本会の松永大吾経営管理委員会会長が経済事業部門で受賞しました。表彰式には受賞者を始めJAの関係者などが出席し、受賞者の功績をたたえました。

農協人文化賞は、農業協同組合法公布30周年を記念して昭和52年に創設され、長年にわたり献身的に農協運動の発展に寄与した功績者を表彰するものです。



## 仕上り、貯蔵性を競う 第57回静岡県貯蔵ミカン品評会 第43回静岡県中晩生柑橘品評会(ポンカンの部)

1月19日、静岡県柑橘振興基金協会と本会(柑橘果樹課)は、県農業會館で「第57回静岡県貯蔵ミカン品評会」および「第43回静岡県中晩生柑橘品評会(ポンカンの部)」を開きました。

貯蔵ミカンでは、最上位の優秀賞・農林水産大臣賞に高橋誠さん(JAみっかび)、中晩生柑橘(ポンカンの部)では、最高位の優秀賞に澤野郁夫さん(JAしみず)が輝きました。澤野さんは昨年度に続き2年連続での受賞となりました。



貯蔵ミカン品評会には206点

中晩生柑橘品評会(ポンカンの部)には48点の出品がありました。農業・食品産業技術総合研究機構果樹茶業研究部門カンキツ研究領域や果樹研究センター、市場担当者、消費者代表ら審査員18人が、形状や玉ぞろいなどの外観と、肉質・食味の内容・鮮度充実の貯蔵性を審査しました。

出品された普通温州の平均糖度は12・4度、最高は16・5度でした。ポンカンは平均12・2度、最高15・2度でした。果樹研究センターの松浦センター長は貯蔵ミカン品評会について「開花期や夏秋期の降雨、気



▲農林水産大臣賞の貯蔵ミカン



▲優秀賞のポンカン

### 第57回 静岡県貯蔵ミカン品評会

賞	JA名	氏名	品種	特別賞
優秀賞	JAみっかび	高橋 誠	陽一郎	農林水産大臣賞
	JAとびあ浜松	大山陽一	青島	農林水産省農産局長賞
	JAみっかび	長坂敏章	青島	農林水産省関東農政局長賞
	JAおおいがわ	渡辺龍之	青島	静岡県知事賞
	JAみっかび	井口品夫	青島	静岡県経済産業部長賞
	JAみっかび	長坂享賢	青島	日本園芸農業協同組合連合会会長賞
	JAみっかび	山口淳一	青島	静岡県京浜地区果実流通協議会長賞

### 第43回 静岡県中晩生柑橘品評会(ポンカンの部)

賞	JA名	氏名	特別賞
優秀賞	JAしみず	澤野郁夫	日本園芸農業協同組合連合会会長賞

温高による病害や浮き皮など発生しやすい状況の中、出品された果実はいずれも厳選されており、生産者の努力がうかがえた。貯蔵状態もおおむね良好で全体的に糖が高く、酸とのバランスが良く食味良好な果実が多かった」と講評しました。



## 静岡の貯蔵ミカンをPR 品評会受賞の貯蔵ミカンを県知事に贈呈

1月26日、静岡県経済連柑橘委員会（事務局・柑橘果樹課）は、静岡市葵区の静岡県庁で、品評会において上位入賞した貯蔵ミカンを川勝平太静岡県知事と森貴志副知事に贈呈しました。贈呈したミカンは第57回静岡県貯蔵ミカン品評会で最高位となる農林水産大臣賞を受賞した高橋誠さん（JAみっかび）のミカン。贈呈式には高橋さんの他、品評会で上位に入賞した大山陽一さん（JAとびあ浜松）、長坂敏章さん・井口晶夫さん（JAみつかび）、渡辺龍之さん（JAおおいがわ）と同委員会



▲川勝知事（写真前列左から3人目）と高橋さん（前列右から3人目）

した。高橋さんは「今シーズンは天候不順が心配されたが美味しいミカンができた。受賞を励みにミカン生産を一層努力していきたい」と話し、川勝知事は「いただいたミカンを食べ、静岡の貯蔵ミカンのおいしさをPRしていきたい」と応えました。



▲川勝知事（左）と高橋さん（右）



▲森副知事（写真前列右から3人目）と大山さん（前列左から3人目）

## なし・いちじく・キウイフルーツ受賞者を表彰 落葉果樹品評会の表彰式を開催

1月30日、静岡県落葉果樹振興協会（事務局・柑橘果樹課）は、県農業会館で、なし・いちじく・キウイフルーツの各品評会上位入賞者の表彰式を開催し、生産者とJA担当者ら30人が出席しました。

同協会の会長を務める本会の石川和弘常務理事と県農芸振興課中村友之課長、県農林技術研究所果樹研究センター松浦英之センター長が、なし品評会金賞の瀧智さん（JAしみず）、いちじく品評会金賞の太田雅俊さん（JA遠州中央）、キウイフルーツ品評会金賞の山田文夫さん（JAしみず）ら上位入賞者へ表彰状を授与しました。



▲なし品評会金賞の瀧さん（左）

表し、経営状況や栽培管理などを報告しました。いちじく品評会金賞の太田さんは「この金賞を励みに、消費者に喜ばれるいちじくを作りたい」と語り、なし品評会において2年連続で金賞を受賞した瀧さんは「来年も受賞できるよう努力していきたい」と話しました。

また、表彰式に併せて記念講演を行い、本会肥料農業課の夏目英俊課長が、肥料情勢と安定供給に向けた取組を報告しました。



▲記念講演を行う夏目課長



▲いちじく品評会金賞の太田さん（左）



静岡県産品をPR

## 首都圏のイオンで静岡県フェアを開催

みかん園芸部は、1月26日から30日の期間、首都圏のイオンで開催された静岡県フェアに県産農産物を供給しました。フェアは、イオンリテール(株)北関東カンパニーが開催し、埼玉、群馬、栃木、茨城のイオンなど43店舗で行われ、県産農産品以外にも水産品や加工品などが販売されました。

主会場となった埼玉県越谷市のイオンレイクタウンでは、特設コーナーを設け旬の農産品として静岡いちご「紅ほっぺ」「きらび香」やミカン、レタスなどの野菜



菜、果物を販売した他、バラやカーネーションなどの花きも店頭に並びました。同社と県は、包括連携協定を結んでおり、県マーケティング課は今回のフェアで観光情報の発信や県知事のメッセージ動画を放映し、来店客に静岡県をPRしました。

## 日本最大規模の花の展覧会 第71回関東東海花の展覧会

1月27日から29日まで、関東東海地域1都11県と花き関係6団体は、東京都豊島区のサンシャインシティ文化会館で第71回関東東海花の展覧会を開き、本県では一般切花部門で鈴木顕一さん(JAふじ伊豆)のキンギョソウ(雪姫)が金賞1席の農林水産大臣賞を受賞しました。品評会では全10部門に1,439点が出品され、本県からは178点出品し、金賞8点、銀賞20点、銅賞29点が入賞しました。鈴木さん以外の県内金賞受賞者は次のとおり(敬称略、カッコ内はJA名と品名)。



▲最高金賞を受賞した鈴木さんのキンギョソウ

- 一般切花部門
  - 金3席 全国農業協同組合中央会長賞 山本素志(とびあ浜松・ガーベラ「サレナ」)
  - 金4席 日本花き卸売市場協会会長賞 岡田浩一(とびあ浜松・スイートピー「フリアピンク」)
  - 金7席 日本花き生産協会会長賞 藤野和樹(とびあ浜松・ガーベラ「ガーデンゴースト」)
  - 金10席 静岡県花卉園芸組合連合会会長賞 古橋美代子(とびあ浜松・トルコギキョウ「セレブルスタル」)
- ばら部門
  - 金4席 日本花き卸売市場協会会長賞 服部 至(しみず・サムライ)
  - 金5席 農林水産省関東東海農政局長賞 大場慶子(掛川市・サラ)
- 球根切花部門
  - 金5席 静岡県知事賞 小川昌巳(しみず・タリア「エターニティロマンス」)

## 産地の課題解決 産官学技術交流事業報告会

1月25日、静岡県産地技術課題解決研究会(事務局…生産振興開発課)は、県農業会館で令和4年度静岡県産官学技術交流事業報告会を開催し、JA、県、大学などから約90人が参加しました。産地技術課題解決研究会は、産官学技術交流事業を推進する組織として2008年に発足し、本県産地の活力を増強することを目的に、新技術の開発と現地での実証、営農技術情報の収集と発信を行っています。

報告会では次の6つの内容について、産地が抱える課題と解決に向けた試験取組や結果を報告しました。

- ① 「三方原バレイショ シストセンチュウ抵抗性品種の選定試験について」(JAとびあ浜松北宮農センター 柴田有毅さん)
- ② 「酒造好適米『令和誉富士』の乾田直播栽培技術の確立と担い手への普及」(JAおおいがわ農業経営支援課 渡辺彰人さん)
- ③ 「多収穫水稻品種の安定栽培技術確立と担い手への普及」(JA遠州夢咲営農指導課 岡澤和也さん)
- ④ 「JA遠州中央の赤しそ栽培とコガネムシ対策について」(JA遠州中央豊田店 小野田大敬さん)
- ⑤ 「さつまいもの高品質安定生産と貯蔵技術の確立による担い手の育成」(JAおおいがわ藤枝営農経済センター 八木邦明さん)
- ⑥ 「令和3・4年度サツマイモプロジェクトの取組み」(JA遠州中央営農事業部園芸課 松永岳彦さん)



# 提携協NEWS

「静岡県協同組合間提携推進協議会」（略称：提携協）では、1990年の発足以来、構成団体である県域の協同組合（農協・漁協・生協）6団体間で事業提携に向けた検討や交流事業、環境保全活動などに取り組んでいます。この提携協NEWSでは本協議会の活動内容について報告します。

## 2022年度活動報告

### 協同組合学習交流会を開催

11月16日、静岡市内で協同組合学習交流会を開催し、協議会6団体の若手職員を対象に29人が参加しました。協同組合の意義と役割を再認識するとともに、他の協同組合の組織・事業・活動を理解し合うことを目的として行っているものです。

交流会では初めに、提携協の活動内容について紹介。次いで、研修として(株)WORK WADAの小川雅則氏を講師に招き、協同組合間の提携を拡大、進めるための必要なスキルとして「チームワークとコミュニケーション研修」を開催しました。研修では、コミュニケーション能力向上のために、心身の成長や心の安定に大きな影響を与える手法（＝ストローク）について学びました。自分自身を見つめ直すこととして、各個人の仕事の課題についてグループ全員で共有して、解決方法を話し合うグループワークを行いました。

参加者からは、「ストロークは、今後の業務の上で忘れてはならない意識だと感じた」「グループワークでは、共感できること、実践したいことがたくさんあった」という感想が出るなど、充実した交流会となりました。



## 2022年度活動報告

### 女性交流集會を開催



12月8日、島田市のKADODE OOIGAWAで女性交流集會を開き、JA、生協、漁協、森連の各組織の女性部員や役員ら31人が参加しました。女性交流集會は提携各団体の生産・流通・販売の実態を把握し、それらの理解を深めるとともに、地域・組合員段階での交流を促進することを目的として行っているものです。昨年までの2年間はコロナ禍の影響でオンライン形式で行っていましたが、今回3年ぶりに対面での開催となりました。

当日は、日頃の活動や評判の良かった活動についてグループごとに意見交換を行いました。各グループでは、清掃・リサイクルなどの地域貢献活動や、国産米を配合した飼料の活用・米ぬかの再利用などのSDGsに関する意見交換が行われました。その後、同施設の体験型アトラクション「緑茶ツアーズ」や農家レストラン「Da Monde（ダ・モンデ）」で参加者は交流を深めました。

参加者からは「初対面の方との交流であったが時間があっという間だった」と感想が聞かれ、有意義な交流の場となりました。



#### 【静岡県協同組合間提携推進協議会】

・ JA 静岡中央会 ・ 静岡県信連 ・ JA 静岡経済連 ・ 静岡県漁連 ・ 静岡県森連 ・ 静岡県生協連  
TEL (代表) : 054-284-9612



# 営農支援だより



## 昆虫も病気にかかる

新型コロナウイルスの流行は4年目に入り、人類はまだその対応に苦慮しています。家畜の世界でも、鳥インフルエンザが大流行し鶏肉や鶏卵の価格に影響を与えるほどです。農作物でも様々な植物病が発生し、その被害を食い止めるために様々な対策が取られています。「病気」は、生物の世界では必ず付いて回るものです。

農作物に被害を与える害虫（昆虫）も様々な病気にかかり、葉上などでその様子を観察することができます。これらの病原菌の一部は天敵（生物農薬）として利用もされています。今回は、代表的な昆虫の病気を紹介します。

### 核多角体病（膿病、乳化病）

ウイルスによって引き起こされる病気です。幼虫が何となくだらりとして、葉や枝にしがみついて死亡します。皮膚が破れやすくなっているだけで白く濁った体液が飛び散ります。体液の濁った様子から膿病とも呼ばれます。

体液の中には多角体（ウイルスを含む微粒子）が多数形成されていて、葉に付着した多角体を食べた別の幼虫に感染、発病します。



▲核多角体病で死亡したハスモンヨトウ幼虫

### 緑きょう病（硬化病）

糸状菌（カビ）の一種により引き起こされます。幼虫がこわばって植物の茎葉にしがみついて死亡します。死亡した幼虫はやがて白いカビに覆われ、さらに緑色の胞子が形成されます。胞子は風などで飛び散り、別の幼虫に感染します。「きょう」というのは古い言葉でミイラのこと、感染した幼虫はこわばって（硬化して）死亡

するため、このような病名がつけられました。形成される胞子の色が異なる、黄きょう病、白きょう病なども知られています。



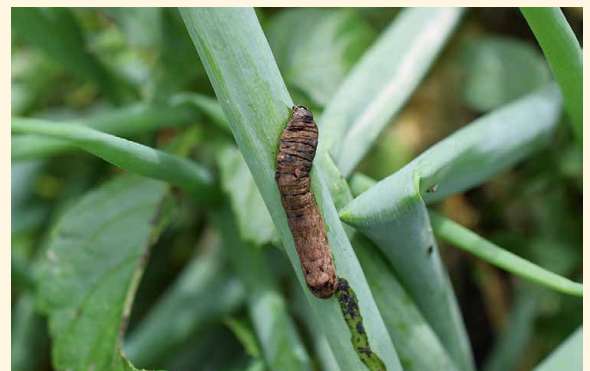
▲緑きょう病で死亡したタマナギンウワバ幼虫

### 軟化病

細菌の一種が原因です。幼虫の動きが鈍くなり、餌も摂らなくなり、体色が黒変し柔らかくなります。幼虫の糞は通常はころころした粒状ですが、下痢状の糞をするようになり死に至ります。

### 昆虫病原菌の応用

昆虫の病原菌を害虫防除に利用しようという試みは、古くから行



▲軟化病で死亡したハスモンヨトウ幼虫

われており、現在では、ウイルス、糸状菌及び細菌のいずれも生物農薬として利用されています。中でも、細菌の一種でチョウ目害虫に効果の高いB.T剤が、広く使用されています。昆虫の病原菌は人や動物、植物には病気を引き起こすことはなく安全性は高いものです。今回紹介した感染虫はいずれもチョウ目害虫ですが、甲虫目やアザミウマ目などほかの昆虫でも各種の病気が知られています。

（生産振興開発課  
技術コンサルタント 市川 健）

## 野菜の肥料コスト低減対策

世界的な穀物需要の増加やエネルギー価格の上昇、不安定な国際情勢により国内の肥料価格が大幅に上昇しています。そのため肥料コスト低減は農産物生産を行う上で喫緊の重要課題となっています。

### 土壌診断の実施

現状多くの野菜栽培では、過剰施肥の傾向があると思われます。土壌への肥料成分の過剰な蓄積の要因は、①連作が多い、②野菜は多肥に強い、③葉菜類は生育最盛期に収穫する（収穫時にはまだほ場に肥料が残っている）、④露地では雨水、水田ほ場では湛水、流水で肥料成分が流れる（すべての成分が流れる訳ではない）といったことが考えられます。

土壌診断で一番に目にするのが、pH、EC、肥料の三大要素（N、P、K）の分析値の多少だと思えます。

ECの値や硝酸態チッソの値で施肥量を加減するといったように、これはわかりやすい項目です。

リン酸については意外と過剰で、この元となるリン鉱石は、日本はほぼ輸入に頼っており、世界のリン鉱石の埋蔵量も有限であり無駄は小さくしなければなりません。日本は火山国で火山灰土壌が多いため、多くのリン酸が土壌に吸着されています。リン酸は、作物の生育や開花・結実、果実の甘味に関与しており、不足すると作物の収量・品質が低下してしまいます。このため作物にリン酸を吸収させようと必要以上にリン酸質肥料や堆肥などが施用されてきました。結果、日本には土壌中にリン酸が過剰な田畑が多くなっています。

### リン酸過剰による影響と対策

作物に激しい症状は現れにくいですが、ゆるやかに品質、収量の低下が起り鉄や銅、マグネシウム、亜鉛などの微量元素欠乏を誘発します。

ジャガイモはそうか病、アブラナ科野菜では根こぶ病を助長、レタスではレタス根腐病の発病が助長されます。そのメカニズムはジャガイモそうか病と同様に、リン酸によるアルミニウム固定（無毒

化）であると推察されています。過剰の対策として、リン酸資材を削減すること、リン酸は時間とともに難溶化し可給度は減少しますが土からの流亡・移動はほとんどないため、土壌酸度の中和と有機物の施用により土壌に蓄積されているリン酸を作物に使われる可給態に変えることが重要です。

### 肥料コスト低減のための対策

コスト低減の基本は、土壌診断により栽培ほ場の実態を正しく理解して、過剰な施肥などの無駄をなくし適正量の施肥を行うことです。以下に肥料コスト低減のための対策を記載しました。

- (1) 土壌分析に基づいた施肥量の削減
- (2) 有機質資材施用による化学肥料の削減
- (3) 緑肥の活用による施肥量の削減
- (4) 効率的施肥技術の導入による施肥量の削減
- (5) 低価格肥料の利用

まず土壌診断はすべての基本です。またその結果を正しく理解しましょう。1回限りで全て分かるわけではありません。その土地の性格を知り将来的に高品質の農産

物を安定生産していくためにも、継続した土壌診断が必要ですよ。

次に有機物、緑肥などの活用です。本来土づくりとして活用されていますが、

資源の乏しい日本では今後肥料として活用も必要になります。ただし有機物の肥効は化学肥料のようにストレートに発揮されるわけではないので、その性質を知ることが重要です。

そして、局所施肥や緩効性肥料活用も有効な対策となってくると思われます。

肥料コスト低減への取組はこれから続くことになりそうです。今一度栽培ほ場や施肥体系などを確認してみましょう。



▲レタス根腐病



▲ジャガイモそうか病

（野菜花卉課 曾根克巳）  
技術コンサルタント 曾根克巳



中日本ファームすずなり株式会社

新集出荷場完成

## 令和3年度 産地生産基盤パワーアップ事業 中日本ファームすずなり株式会社 浜松集出荷場新築工事竣工式

令和5年1月23日、中日本ファームすずなり株式会社は、浜松集出荷場新築工事の竣工式を行いました。

神事は、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を行い、鈴木貴博（すずきよしひろ）代表取締役をはじめ、最小限の出席者により厳粛に執り行われました。

同社は、浜北区中瀬地区を中心に集出荷作業を行っていましたが、収穫量も増え、作業スペースが手狭となったことから、産地生産基盤パワーアップ事業を活用し、新たに集出荷場を新築しました。

同地区周辺に農地が集積しているため、農地から作物をスムーズに運搬でき、効率的に集出荷作業を行える中心の場所として計画されました。

設計監理は、静岡県経済連一級建築士事務所が行っています。



▲鈴木代表取締役の挨拶



▲建物外観写真

テレビ番組

## 「しずおかごはんが食べたい！」(テレビ静岡)

担当：食糧部 食糧課 (TEL:054-284-9737)

静岡県産米麦流通連絡協議会（事務局：食糧部）は、テレビ番組「しずおかごはんが食べたい！」(テレビ静岡・全11回放送)に協賛し、県産米をPRしています。

令和4年度の第10回目（2月18日）の放送では、オードリー・春日俊彰さんが、御前崎市・牧之原市から「夢咲こしひかり」を紹介しました。「夢咲こしひかり」は、県内有数の早場米の産地として盛んにお米が栽培されている、JA遠州夢咲が誇るブランド米です。番組では夢咲コシヒカリ生産者の岡村佳寿哉さんと増田達也さんがビデオメッセージで出演し「丹精込めて育てたお米で、香りと甘みが特徴」とPRしました。

今回の「しずおかごはんが食べたい！」は、磐田市・袋井市からフォーリンラブ・バービーさんが「にこまる」を紹介し、放送は3月18日となります。



JA遠州夢咲管内で栽培し収穫したブランド米 ツヤ・香り・甘み・もちり感が特徴 和食とも相性抜群

▲春日さんが「夢咲こしひかり」を紹介



▲生産者の岡村佳寿哉さんと増田達也さんがビデオメッセージで出演

# キャラバン隊 活動報告

ふれあいから学ぶ  
接客研修

人事教育課は、令和4年11月から12月にかけて「令和4年度営業・接客研修（キャラバン隊）」を実施し、本会2年目の職員4人が参加しました。研修は、本会が運営する外食販売事業所「駿府の肉処 静岡そだち」での接客研修とAコープ店舗などでの県産米（静岡コシヒカリ『静岡そだち』）の試食販売を、計2日間行いました。

人と人との距離が遠くなっているといわれる今の時代にお客様とふれあい、言葉を交わすことが接客の基礎・基本であると改めて感じる研修となりました。



暮らし支援部 総合エネルギー課  
小柳 美琴



場所：産直プラザふれっぴー梅ヶ谷店（静岡市清水区）

食糧部 食糧課  
杉本 耀介



場所：Aコープ引佐店（浜松市北区）

中部支所 肥料農業課  
新村 航季



場所：KADODE OOIGAWA（島田市）

畜産部 小笠食肉センター  
清水 美桃



場所：KADODE OOIGAWA（島田市）



**紅ほっぺ**

みちよば

大粒果実に甘みと  
コクが織りなす絶妙なバランス  
紅色がとても鮮やかな  
静岡いちごの代表格

紅の？

静岡県いちご協議会

**きらび香**

みちよば

宝石のような輝きと  
甘さ際立つフルーティーな香り  
口当たりなめらかな  
静岡いちごの至高の一粒

び香の？

静岡県いちご協議会

担当：みかん園芸部 野菜花卉課 (TEL：054-284-9714)

